

●起業準備者が直面する課題

起業準備者になった者は、あと一つのステージを上げれば起業家になれるという意味で、起業家に最も近い存在である。では、この段階にいる者は、どのような課題に直面しているだろうか。第 3-2-22 図を見してみる。

全体として、起業準備者になると、初期起業準備者に比べ、課題が「特にない」と回答する割合が低下しており、ステージが進むごとに何かしらの課題に直面するようになってきている。「経営知識」や「専門知識」、「資金調達」を課題とする割合は初期起業準備者と同様に高い割合を占めている一方で、「家族の理解・協力」の割合が上がっており、具体的な起業の準備を行う上で、家族からの理解を得る必要性が浮き彫りになった。

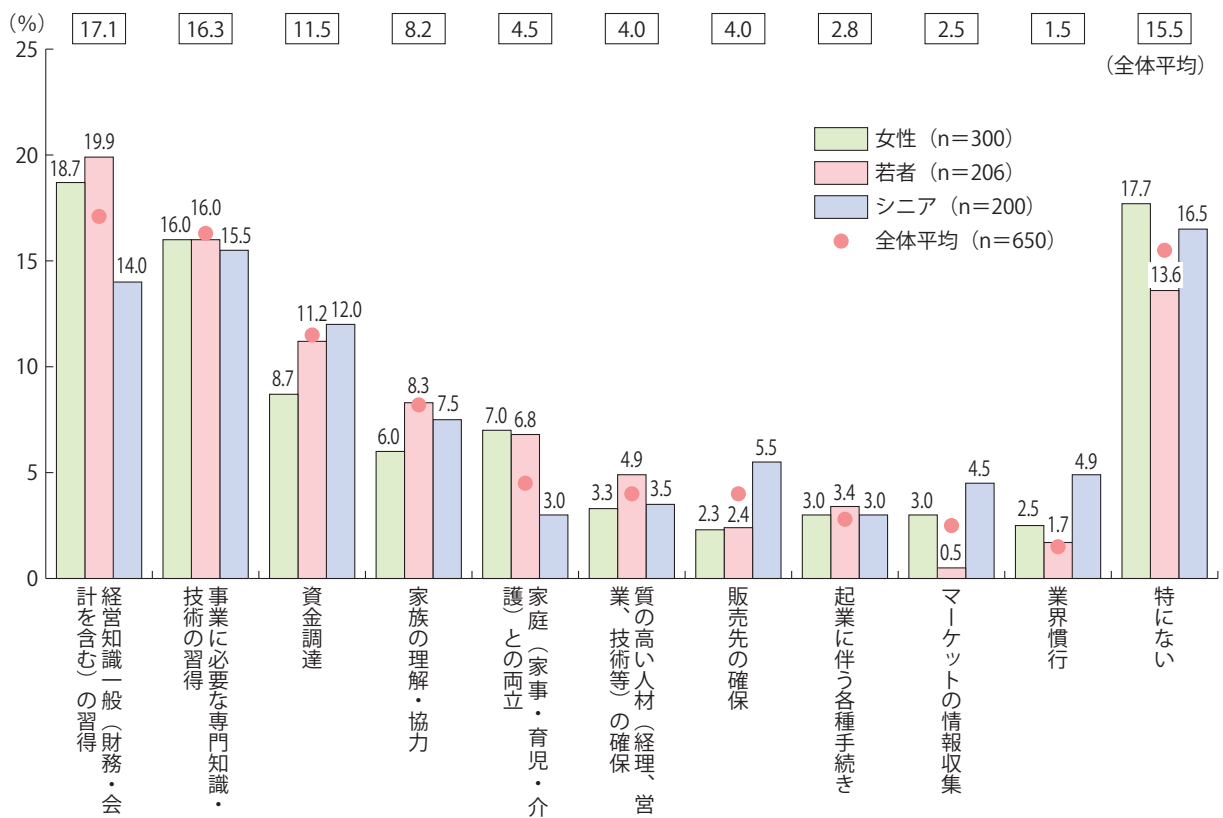
次に、女性や若者、シニアについての特徴を見

ていく。女性は課題に関して全体的に低い数値となっている。女性は比較的、生活のニーズに根ざした、開業費用を抑えた小さな起業を行う傾向があり、若者やシニアに比べ、起業準備段階において直面する課題が少ないことが推察される。

若者については、「経営知識一般（財務・会計を含む）」の習得、「業界慣行」が比較的高くなっている。社会経験が少ないため、経営知識一般に課題を感じている傾向がある一方で、業界慣行も課題と感じており、既存の業界に対して何らかのマイナスのイメージを感じていることが分かる。

シニアにおいては、「資金調達」を課題として挙げる割合が相対的に高い。後掲の第 3-2-24 図にあるように、シニアは開業に要する費用も比較的高いことから、資金調達に関する課題を感じるのではないかと考えられる。

第 3-2-22 図 起業準備者が直面している課題



資料：中小企業庁委託「日本の起業環境及び潜在的起業家に関する調査」（2013年12月、三菱UFJリサーチ&コンサルティング(株)）

(注) 1. 回答した割合が高い10項目及び「業界慣行」を表示している。

2. 起業準備者が直面している課題について1位から3位を回答してもらった中で、1位として回答されたものを集計している。